

# その名はインマヌエル

(イザヤ 7:10-14; マタイ 1:18-23)

2020年12月20日クリスマス主日礼拝

仙川教会説教

大串肇

イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。(18-19 節)

当時のユダヤ教の律法によれば、婚約は結婚と同じような法的な意味がありました。マリアはすでに「妻」と呼ばれていました(20 節)。ところがマリアはすでに身ごもっていたのです。これはヨセフにとって思いもしなかったはずで、18 節後半によれば、(後になって)これは聖霊の御業であるとヨセフは天使から知らされました。

また「ヨセフは正しい人であった」(19 節)とされています。文字通りそうであれば、ヨセフは姦淫の罪でマリアを告発したはずで、しかし、彼は「ひそかに縁を切る」ことを決断しました。これは唯一の合法的な解決でしたが、ヨセフにとっては苦渋の決断です。しかしヨセフはマリアの立場と生命を守ろうと決心したのです。

このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」(20 節)

マリアを救うことが出来たのは、ヨセフ自身がもともと立派な人であり、勇気ある人だったからではありません。「聖霊によって」神の子を授かること自体信じられない出来事です。ヨセフにとりまして衝撃的だったはずで、しかしその恐れや不安を打ち砕いたのは「恐れるな」という天使の声でした。この言葉が、ヨセフに神に従順に従う力や、実行する勇気を与えたのです。父親としてヨセフに与えられた役割とは、男の子の命名でした。こうしてイエスがダビデの家系であることが証明されるのです。「イエス」とは「ヤハウエは救い」という意味です。イエスこそ、イスラエルの民を救う救世主(メシア)です。イスラエルの人々はメシアが自分たちを救ってくれると信じていました。ですから、旧約の預言者イザヤを通じて預言されていた神の救いの約束がイエス誕生のよって成就したのです。

このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエル

ルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。(22-23 節)

「インマヌエル」とは「神は我々と共におられる」という意味です。その名前は形を変えてこの福音書の最後に出て来ます。28 章 19-20 節です。

**だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしてください。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。**

十字架について死んだ後、復活した主イエス・キリストは弟子たちにそう告げ励ましました。福音を宣教し、伝道しなさい。恐れなくてもいい、主イエス・キリストが共にいてくださるからです。これがマタイの教会が受け取った使命です。わたしたちは気が向いたら伝道しようか、今の時代はやりにくいから様子を見るのでしょうか。伝道は聖霊の御業であり、神から与えられた使命なのです。

しかしあらゆる可能性を超えて神の御子はお生まれになりました。そしてわたしたちの常識や能力をはるかに超えた出来事でした。御子はわたしたちのために犠牲になり、命を捨て、そして罪と死に勝利され、復活したのです。「すべてのこと」が約束されたとおりに起こったのです。主イエス・キリストの生と死、誕生と十字架復活は、「すべて」神の御業なのです。最初から最後まで、徹頭徹尾、わたしたちを救うための奇跡の出来事だったのです。

他方、ヨセフは夢に示された神のご委託にお応えして従いました。マリアを愛し、天使の言うとおりにイエスと名づけ、その幼子をそれこそ命がけで守ったのです。クリスマスはそういう愛と勇気の決断の時、信仰と従順の時なのです。しかしその愛も勇気も、信仰も従順も、その力を与えてくださるのは神ご自身であり、聖霊の御働きです。わたしたちはどんなときにも御子イエス・キリストがわたしたちと共にいてくださることを信じて行けばいいのです。これがわたしたち教会に与えられた約束です。愛と勇気、信仰と従順があたりまえのように祈り求めてまいりましょう。世の終わりまでイエス・キリストがわたしたちと共にいて下さいます。祈りましょう。